

ななサポこしがや 越谷市展示コーナー



油長内蔵運営協議会 (越谷市住まい・まちづくり協議会)

越ヶ谷蔵物語

第3章3幕 浮世絵・版画展 三 鳶の親方(山三)染谷家の蔵

- 4月6日(木) ~ 4月30日(日) 第1場 三代目歌川豊国とその弟分・弟子たちの浮世絵
5月3日(水) ~ 5月28日(日) 第2場 歌川広重『東海道五十三駅風景続画』坂本義信『土佐三十絵図』
6月1日(木) ~ 6月25日(日) 第3場 合巻・読本(草双紙)、双六、絵図等



染谷さん(右)へのインタビューの様子 (令和3年5月染谷家にて)

この度、越谷市市民活動支援センター越谷市展示コーナーでは、油長内蔵運営協議会企画「越ヶ谷蔵物語第3幕 鳶の親方・染谷家の蔵」展を開催します。本展示は昨年、新型コロナウイルスの影響で中断した展示(令和4年7月10日~8月3日)を再構成し、再開するものです。

親方こと染谷隼生氏のコレクションは、染谷氏が意思を持って収集したのではなく、戦後の食糧難という時代性や、急速に都市化が進んだ越谷の地域性、そして染谷氏の生業であった〈鳶〉という職業性を背景に、自然と染谷氏のもとに集まってきた品々です。今回はその中から、染谷氏が大切に保管・保存してきた浮世絵と版画を展示します。

本展示の企画団体である油長内蔵運営協議会は、長年にわたり染谷氏の蔵に保存されている品々を調査するとともに、染谷氏へのインタビューも行い、いまは知る人も少なくなったかつての越谷の姿をオーラルヒストリーとして記録してきました。染谷氏は、残念ながら本年1月に享年96歳で逝去されました。生前、この展示会を楽しみにされていたので、追悼の意を表した展示会とさせていただきます。

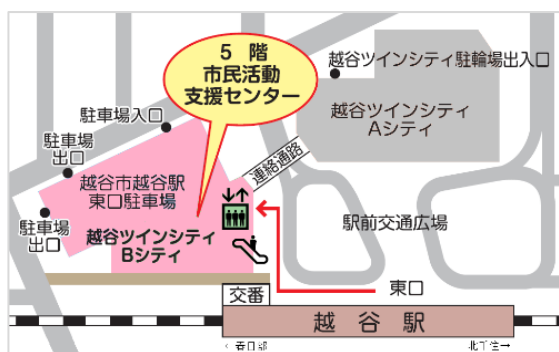
この展示は越ヶ谷宿の蔵やそこに残された貴重な史料や家室を紹介するとともに、これらを保存してきた人物やその家業を通して、越谷の歴史やまちの成り立ちを学び、今後のまちづくりに活かしていくために企画しました。

【会場】越谷市市民活動支援センター
観光・物産情報コーナー内

【入場料】無料(申込不要)

【主催】越谷市市民活動支援センター

【お問い合わせ】電話：048-969-2750



【展示団体について】

あぶらちょううちくら

油長内蔵運営協議会

油長内蔵は江戸時代からの旧家である山崎家の内蔵を、ポラスグループ株式会社中央住宅が曳家改修して越谷市に寄贈したものであり、ここを拠点として越谷市の中心市街地活性化に資する事業を行うため、平成29年3月につくられた団体。普段は中心市街地のまちなか居住と景観まちづくりの推進のためのまちづくり相談処となっている。また、毎週金・土・日曜日には賑わい創出と地域のふれあい処としてのまち蔵カフェを実施している。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場ではマスクの着用をお願いいたします。

展示品について

第1場 三代目歌川豊国とその弟分・弟子たちの浮世絵

浮世絵と云うとすぐ出てくる名前は、喜多川歌麿・東洲斎写楽・葛飾北斎・歌川広重等でしょうか。これらの浮世絵師達は、素晴らしい作品を沢山残してくれました。今でもその人気は衰えていません。しかし、浮世絵の長い歴史の中では、その当時は、これらの人々に勝るとも劣らぬ人気作家がいましたし、浮世絵自体が、その木版の「彫り」の技術や、「摺り」の技術の高度化や、絵具の多様化、西洋の絵画の影響等々で、刷り物としての品質の高度化も進みました。その中の筆頭は、歌川国貞、後に師匠の名を継いで3代目・歌川豊国と称した浮世絵師だと思います。染谷親方の蔵には、その3代目豊国と、兄弟弟子や門人（歌川派の浮世絵師）の作品（浮世絵）が残されています。



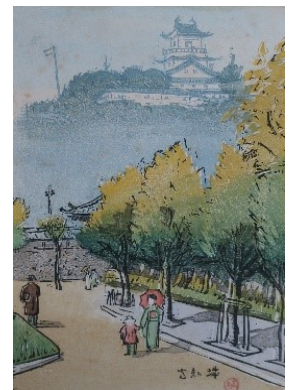
第2場 歌川広重『東海道五十三駅風景続画』・坂本義信『土佐三十絵図』 揃物浮世絵の一括展示

歌川広重『東海道五十三駅風景続画』は、53カ所の宿場と首尾の日本橋と京師を含んだ55枚からなります。本来、浮世絵は一作品を一枚ずつ楽しむものでしたが本展ではそれを一括展示します。染谷コレクションは保永堂版で2枚ほど欠けており完全ではありませんが、同折れ本版もありこれで補いますので一括展示に近い展示ができました。この機会を逃さないで楽しんでください。



土佐（高知県）の画家・坂本義信の版画『土佐三十絵図』を一括展示します。

第2次大戦直前に制作されたこの作品はまともにも人の目に触れることもなく戦後占領軍の文化財収集対象となり海外に流出され、忘れ去られていました。再評価されてしかるべき作品。国内にはほとんど残らぬ初摺版が越谷にあったのです。是非この機会にご照覧を！



第3場 合巻・読本(草双紙)、双六、絵図等

第3場は、浮世絵以外の木版のものを展示します。その(一)は冊子(本)で、合巻・読本等々、草双紙です。論語や史記の様な学問的なものでなく、絵本の様な小説類です。挿絵は浮世絵作家がかいています。その(二)は双六でこれも浮世絵画家が描いています。そして最後の(三)は絵図等です。



◆展示期間中はビデオによる展示解説があります。(上映時間：9：00～17：00)

※日時は変更となる場合がございます。詳細はセンターHPをご確認ください。

企画：油長内蔵・越ヶ谷蔵物語実行委員会

越谷市市民活動支援センター

検索

